

琉球国王より満刺加国あて、安遠路等を遣わして前年の乗組員の違法行為に対する処置を講じたことを知らせ、速やかな

交易を請う咨（一四七〇、□）

琉球国王、満刺加国王殿下に移咨す。

恭んで審らかにするに、賢王、英資は天錫にして地方を継統し、徳沢は生霊を被い声華は遠邇に揚ぐ。肇めて先君の開基してより永く盟好を通じ俚質を紹承す。良に惟うに蕞爾なるも襲膺して聊か恪恭を致す。特に優容を賜い、仍お饋恵を承け、銘刻して忘れず。今、正使安遠路・通事陳泰等を遣わし、咨文及び回礼の物を齎し詣前して酬献せしむ。伏して惟う、見納すれば欣慰常に倍す。前歳多く下人の故に禁令に違ひ、事を作すの無端なる有り。咨文至るの日、聞知し隨即に区処す。今後儻し使をして常儀を失う有らしむれば、望希むらくは言回せんことを。示すに懲を以てせん。尚わくは両負無く、永く一盟を協せん。其の船内に瑣碎の方物を装載し、彼に適きて互相に奇貨を易換す。乞う、属に令行して作成せしめんことを。風信に赶趁し回還すれば利便ならん。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す

色段五匹 青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

青碗二千個

右、満刺加国に咨す

成化六年（一四七〇） 月

咨

注（一）俚質 したしみなじんだ間柄。

（二）襲膺 父祖の官爵をうけつぐ。ここでは尚円の即位をさすか。

尚円の即位については（〇一一二）総注・（〇一一八）注（一）参照。

（三）前歳：無端なる有り （三九〇八）参照。

1-41-17

琉球国王尚徳より朝鮮国あて、日本の商船に託して返礼する咨と別幅（一四七〇、四、一）

琉球国王尚徳、朝鮮国王殿下に奉復す。

比頒恵を蒙り、敢えて拝嘉せざらんや。且つ賢王の起居の益々康きを審らかにし、甚だ傾企を慰む。敵邦と貴国と江漢の遠きを隔つと雖も、而も聘献の礼未だ嘗て輟むこと或らず。王の孤を鄙しまざるに非ざれば、能く是くの如からんや。近ごろ日本国の商舶、書信並びに礼儀を致すに因り、俱に已に収受して心に銘刻す。